# 資治通鑑 第 170 巻

【陳紀四】　起強圍大淵獻，盡重光單閼，凡五年。

■陳、●北周、北齊北齊、続国訳漢文大成 経子史部 第 10 巻 067p

## 臨海王光大元年（丁亥，５６７年）（臨海王は諱は伯宗、字は奉業、文帝の嫡子）

■**春，正月**，癸酉（9-9+1=１日）朔，日之を食する有り。■尚書左僕射の**袁樞**は卒す。

■乙亥（11-9+1=３日），大赦し，改元（光大）す。■辛卯（27-9+1=１９日），**帝**は南郊に祀す。

北齊壬辰（28-9+1=２０日），齊の**上皇**（世祖武成帝、高湛 537 生、在位 561 年-565 年、569 没）は鄴に還る。（去年八月に晉陽に行く、北齊の君主の即位は晉陽で行なった）

●己亥（35-9+1=２７日），**周主**は籍田を耕す。

北齊**二月**，壬寅（38-38+1=１日）朔，**齊主**（後主、高緯、556 生、在位 565 年-576 年、577 没）は元服を加え，大赦す。

### 【陳項が陳の実権掌握、粛清の波】

■［劉師知は陳項を刺史に出す策謀］初め，**高祖**は梁の相（梁州×、高祖・陳覇先は王僧辨を殺して梁の敬帝を立てて遂に之に相となり禅譲を受ける）と為り，**劉師知**を用いて中書舍人と為す。**師知**は學は工文に渉し，儀體（朝儀國禮、一説に威儀容禮）を練習し，世祖（陳二代の文帝陳蒨）の朝を歷，位は宦と雖も遷らず，而して委任すること甚だ重く，揚州刺史の安成王の**頊**、尚書僕射の（10-068p）**到仲舉**と同じく遺詔を受けて輔政す。**師知**、**仲舉**は恆に禁中に居り，衆事を參決し，**頊**は左右三百人と入りて尚書省に居る。**師知**は**頊**の地望權勢が朝野に屬する所と為るを見，心に之を忌み，尚書左丞の**王暹**等と**頊**を外に出さんと謀る。衆は猶豫し，未だ敢えて先す發せず。東宮の通事舍人（蕭子顯の齊志によれば、東宮の職僚に通事舍人無し。五代志に梁の東宮の官に通事守舍人・典法守舍人ありて、陳は之に因る）の**殷不佞**は，素より名節を以て自任し，又た委を東宮に受け（東宮に在りて上の委任を受ける），乃ち馳せて相府（尚書省）に詣り，敕を矯めて**頊**に謂って曰く、

「今四方は事無し，王は東府に還りて州務（揚州の事務）を經理す可し。」

■［毛喜は陳項を留め、劉師知に賜死］**頊**は將に出でんとし，中記室（五代志に、梁の制では蕃王国及び庶姓には持節府有り、中録事・中記室有りと）の**毛喜**は馳せて入りて**頊**を見て曰く、

「陳は天下を有つこと日淺く，國の禍いは繼ぎ臻り（建国八年間に大喪頻りにあり），中外は危懼す。**太后**は深く至計を惟い，王をして省に入りて共に庶績を康んぜ令む。今日之言は，必ず**太后**之意に非ず。宗社之重きは，願わくは王は三思し，須く更に聞奏すべし，奸人をして其の謀を肆にするを得使むる無かれ。今外に出れば即ち制を人に受け，譬えば**曹爽**（75 巻魏の邵陵厲公嘉平元年にあり、司馬懿のクーデターで閉め出された）の如し，富家の翁と作るを願えども，其の得る可けん邪！」

**頊**は**喜**を遣わして領軍將軍の**吳明徹**と之を籌らしむ，**明徹**は曰く、

「嗣君は諒暗にして，萬機は多く闕ける。**殿下**は親は實に周、邵なり，當に輔けて社稷を安んじるべし，願わくは中に留まり疑う勿かれ。」

**頊**は乃ち疾を稱し，**劉師知**を召し，之を留めて與に語り，**毛喜**をして先ず入りて**太后**に言わ使む。**太后**は曰く、

「今**伯宗**は幼弱にして，政事は並びて二郎（文帝は長に居り、頊は次に居る）に委ねる。此れ我が意に非ず。」

**喜**は又た**帝**に言う。**帝**は曰く、
「此れ自ら**師知**等の為す所なり，**朕**は知らざる也。」
**喜**は出で，以て**頊**に報じる。**頊**は**師知**を囚え，自ら入りて**太后**及び**帝**に見え，**師知**之罪を極陳し，仍って自ら敕を草し晝を請い（皇帝署名），**師知**を以て廷尉に付ける。其の夜，獄中に於いて死を賜る。**到仲擧**を以て金紫光祿大夫と為す。**王暹**、**殷不佞**は並びて治に付す（有司に付して罪に治す）。**不佞**は，**不豁**之弟也，少くして孝行（父の死に至孝なり。江陵の陥ちるや、不佞の母は乱兵に死し、不佞は呉に在りて道路隔絶し久しく、奔赴するを得ず。四年の間に昼夜号泣し、居處飲食は常に喪に居るの禮を為す）有り，**頊**は雅（もと）より之を重んじ，故に獨り死せざるを得，免官され而して已む。**王暹**は伏して誅せらる。是より國政は盡く**頊**に歸す。
■［**韓子高は士馬最も盛ん**］右衛將軍の會稽の**韓子高**は領軍府に鎮し，建康の諸將中に在りて士馬は最も盛んなり，**仲擧**と通謀す。事未だ發せず。**毛喜**は人馬を簡びて**子高**に配し，並せて鐵、炭を賜い，器甲を修め使めんと請う。**頊**は驚いて曰く、
「**子高**は反を謀る，方に收執せんと欲す，何為ぞ更に是くの如くする邪？」
**喜**は曰く、
「山陵は始めて畢り，邊寇は尚ほ多く，而して**子高**は委を前朝に受け，名は順に杖ると為す。若し之を收めれば，恐らくは時（續は即）に首を受（續は授）けず，或は能く人の患いを為さん。宜しく心を推して安誘し，自ら疑わざら使むべし，間を伺いて之を圖れば，一壯士之力なる耳。」**(10-069p)**
**頊**は深く之を然りとす。
■［**到仲擧・韓子高に賜死**］**仲擧**は既に廢せられて私第に歸るも，心は自ら安ぜず。子の**郁**は，**世祖**の妹の**信義**（郡の名、五代志に、呉郡常熟県に梁は信義郡を置く、江蘇省蘇常道）**長公主**に尚し，南康內史に除せられ，未だ官に之かず。**子高**も亦た自ら危み，出でて衡、廣の諸鎮と為るを求める。**郁**は毎に小輿に乘り，婦人の衣を蒙り，**子高**と謀る。會々前上虞令の**陸昉**及び**子高**の軍主は其の反を謀るを告げる。**頊**は尚書省に在り，因りて文武の在位を召し**皇太子**を立てるを議す。平旦，**仲擧**、**子高**は省に入り，皆な之を執り，**郁**を並せて廷尉に送り，詔を下し，獄に於いて死を賜わり，餘黨は一に問う所無し。
■辛亥（47-38+1=１０日），南豫州刺史の**余孝頃**は反を謀るに坐して誅せらる。
■［**伯茂は禁中に遊ばせる**］癸丑(49-38+1=１２日），東揚州刺史の始興王の**伯茂**を以て中衛大將軍、開府儀同三司と為す。**伯茂**は，**帝**之母の弟也，**劉師知**、**韓子高**之謀るや，**伯茂**は皆な之に預る。司徒の**頊**は中外を扇動せんことを恐れ，故に以て中衛と為し，專ら之を禁中に居り，**帝**と游處せ使む。
■**三月**，甲午（30-8+1=２１日），尚書右僕射の**沈欽**（官は両省を兼ねる）を以て侍中、左僕射と為す。
■北齊**夏，四月**，癸丑（49-37+1=１３日），齊は散騎常侍の**司馬幼之**を遣わして來聘せしむ。

■●後梁［**華皎は周・梁に通じる**］湘州刺史の**華皎**は**韓子高**の死するを聞き，內に自ら安ぜず(劉師知・韓子高と皆文帝に親任される)，甲を繕い徒を聚め，所部を撫循し，啟して廣州を求め，以て朝廷之意を卜す。司徒の**頊**は偽りて之を許し，而して詔書は未だ出でず。**皎**は遣使して潛に周兵を引き，又た自ら梁に歸し，其の子の**玄響**を以て質と為す。
■**五月**，癸巳（27-7+1=２１日），**頊**は丹楊尹の**吳明徹**を以て湘州刺史と為す。
北齊甲午（30-7+1=２４日），齊は東平王の**儼**を以て尚書令と為す。
■［**華皎討伐軍を徐度が總督**］司徒の**頊**は**吳明徹**を遣わして舟師三萬を帥いて郢州に趣かしめ，丙申（32-7+1=２６日），征南大將軍の**淳於量**を遣わして舟師五萬を帥いて之に繼がしめ，又た冠武將軍の**楊文通**を

遣わして安成より歩道にて茶陵（湖南省湘江道茶陵県、現・株洲市茶陵県）に出で，巴山太守の**黃法慧**をして宜陽（豫章郡宜春県を梁の孝武帝は宜陽に改める、太后の諱を避ける。江西省盧陵道宜春県、現・宜春市袁州区）より澧陵（湖南省湘江道醴陵県、現・株洲市醴陵市）に出で，共に**華皎**を襲わしめ，並せて江州刺史の**章昭達**、郢州刺史の**程靈洗**と謀を合わせて進み討たしむ。**六月**，壬寅（38-36+1=３日），司空の**徐度**を以て車騎將軍と為し，建康の諸軍を總督し，歩道にして湘州に趣かしむ。

●辛亥（47-36+1=１２日），**周主**は其の母の**叱奴氏**を尊びて**皇太后**と為す。

北齊己未（55-36-1=２０日），齊は皇弟の**仁機**を封じて西河王（皆郡王）と為し，**仁約**を樂浪王と為し，**仁儉**を穎川王と為し，**仁雅**を安樂王と為し，**仁直**を丹楊王と為し，**仁謙**を東海王と為す。

■●後梁［周は華皎救援軍派遣］**華皎**の使者は長安に至る。**梁王**も亦た上書して狀を言い，且つ師を乞う。周人は師を出して之に應じるを議す。**(10-070p)** 司會の**崔猷**は曰く、

「前の歳に東征し（洛陽包囲戦失敗、前巻文帝天嘉五年にあり），死傷は過半なり。比（このごろ）循撫すると雖も，瘡痍は未だ復さず。今**陳氏**は境を保ち民を息め，共に鄰好を敦くす，豈に其の土地を利とし，其の叛臣を納れ，盟約之信に違い，無名之師を興す可けん乎！」

晉公の**護**は從わず。**閏六月**，戊寅（14-6+1=９日），襄州總管の衛公直督の柱國の**陸通**、大將軍の**田弘**、**權景宣**、**元定**等を遣わして兵を將いて之を助けしむ。

北齊［斛律金一族の生き残りの秘訣］辛巳（17-6+1=１２日），齊の左丞相の咸陽の武王の**斛律金**は卒す，年八十なり。**金**の長子の**光**は大將軍為り，次子の**羨**及び孫の**武都**並びに開府儀同三司なり，出でて方岳に鎮し（斛律羨は幽州、武都は梁兗州），其の餘の子孫の侯に封じられ貴顯なる者は甚だ衆し。門中に一**皇后**（斛律光の長女は孝昭和が納れて太子妃、次女は武成納れて太子妃、後主は内禅譲を受けて皇后と為す），二太子妃，三公主（光の子の武都・世雄・恒伽は公主に尚す）あり，齊の三世に事（つか）え，貴寵は比べるもの無し。**肅宗**より以來，禮敬は尤も重く，朝見する毎に，常に歩挽車（人が曳く車）に乗り階に至るを聽し，或は羊車を以て之を迎える。然るに**金**は以て喜びと為さず，嘗て**光**に謂って曰く、

「我は書を讀まずと雖も，聞く古來外戚の能く其の族を保つ者有るは鮮なしと。女が若し寵有れば，諸貴の嫉（ねた）む所と為る。寵無ければ，**天子**の憎む所と為る。我が家は直だ勳勞を以て富貴を致す，何の必ずしも女寵を藉（か）らんや也！」

北齊壬午（18-6+1=１３日），齊は東平王の**儼**を以て尚書事を錄せしめ，左僕射の**趙彥深**を以て尚書令と為し，**婁定遠**（數遠×）を左僕射と為し，中書監の**徐之才**を右僕射と為す。**定遠**は，**昭**（婁昭は婁后の弟）之子也。

■**秋，七月**，戊申（44-35+1=１０日），皇子の**至澤**を立てて**太子**と為す。

北齊**八月**，齊は任城王の**湝**を以て太師と為し，馮翊王の**潤**を大司馬と為し，**段韶**を左丞相と為し，**賀拔仁**を右丞相と為し，**侯莫陳相**を太宰と為し，**婁睿**を太傅と為し，**斛律光**を太保と為し，**韓祖念**を大將軍と為し，趙郡王の**睿**を太尉と為し，東平王の**儼**を司徒と為す。

北齊［上皇は過度に高儼を礼遇する］**儼**は**上皇**及び**胡后**に寵有り，時に京畿大都督，領軍大將軍，領御史中丞を兼ねる。魏朝の故事に、中丞が出ずれば，**皇太子**と路を分け（車が道を避けざるなり），王公は皆な遙に車を駐め牛を去り，軛（引き手の横木）を地に頓め，以て其の過ぎるを待つ。其の或は遲違（即時に車を駐車するのが遅れれば）すれば，則ち前驅は赤棒を以て之を棒す。鄴に遷りてより以後，此の儀は廢絕し，**上皇**は**儼**を尊寵せんと欲し，命じて一に舊制に遵ぜしむ。**儼**は初め北宮より出で，將に中丞に上らんとす，凡そ京

畿の歩騎、領軍の官屬、中丞の威儀、司徒の鹵簿は，　畢(ことごと)く從わざるは莫し。**上皇**は**胡后**と幕を華林園の東門外に張り而して之を觀，中使を遣わして馬を驟せ仗を趣す。入るを得ず，自ら言う、敕を奉じると，赤棒の卒（続にヨル）は聲に應じて其の鞍を碎き，馬は驚き，人は墜つ。**上皇**は大いに笑い，以て善しと為し，更に敕して車を駐めしめ，勞問すること良く久し。觀る者は鄴城を傾く。

北齊［高儼と上皇の関係］**儼**は恆に宮中に在り，含光殿に坐して事を視，諸父は皆な之を拜す。(10-071p)

**上皇**は或は時に并州（晉陽宮）に如けば，**儼**は恆に居り守る。行を送る毎に，或は半路，或は晉陽に至りて乃ち還る。器玩服飾は，皆な**齊主**と同じく，須(もち)いる所は悉く官給す。嘗て南宮（齊主が居る、上皇・胡后は北宮に居る）に於いて新冰早李を見，還り，怒りて曰く、

「尊兄は已に有り，我は何の意（竟×）ぞ無きや！」

是より**齊主**は或は先ず新奇を得れば，屬官及び工人は必ず罪を獲る。**儼**の性は剛決，嘗て**上皇**に言って曰く、

「尊兄（儼は恒に上皇を呼ぶ）は懦なり，何ぞ能く左右を帥いん！」

**上皇**は毎に其の才を稱し，廢立の意有り，**胡后**も亦た之を勸め，既に而して中止す。

## 【華皎と周梁連合軍は陳に撃破される】

■●後梁［陳は湘巴二州を曲赦］**華皎**は遣使して**章昭達**を誘い，**昭達**は（使者を）執りて建康に送る。又た**程靈洗**を誘い，**靈洗**は之を斬る。**皎**は武州（五代志に、武陵郡に梁は武州を置く）が其の心腹に居るを以て，遣使して都督の**陸子隆**を誘（旅×）い，**子隆**は從わず。兵を遣わして之を攻め，克たず。巴州（文帝は華皎に命じて湘州巴州等四州を都督せしむ、五代志に、巴陵郡に梁は巴州を置くと）刺史の**戴僧朔**等は並びて**皎**に隸し，長沙太守の**曹慶**等は，本は**皎**の下に隸し（湘州は長沙郡と治所は同じ、州を以て郡を統べる、故にいう），遂に之が用を為す。司徒の**頊**は上流の守宰が皆な之に附くを恐れ，乃ち湘、巴の二州を曲げて赦す。**九月**，乙巳（41-35+1=７日），悉く**皎**の家屬を誅す。

■●後梁［周梁と華皎は陳軍と交戦］梁は**皎**を以て司空と為し，其の柱國の**王操**を遣わして兵二萬を將いて之に會さしむ。周の**權景宣**は水軍を將い，**元定**は陸軍を將い，衛公の**直**は之を總べ，**皎**と俱に下る。**淳於量**は夏口に軍し，**直**は魯山に軍し，**元定**をして步騎數千を以て郢州を圍ま使む。**皎**は白螺（山の名、江蘇省徐海道銅山県の東、現・徐州市銅山区）に軍し，**吳明徹**等と相い持つ。**徐度**、**楊文通**は嶺路（安城・宜陽の步道）由り湘州を襲い，盡く其の留まる所の軍士家屬を獲る。

■●後梁［華皎の水軍は陳に撃破される］**皎**は巴陵より周、梁の水軍と流れに順い風に乘り而して下り，軍勢は甚だ盛んなり，沌口に於いて戰う。**量**、**明徹**は軍中の小艦を募り，多く金銀を賞し，先ず出でて西軍の大艦に當たり其の拍（打撃用の竿を発する）を受け令む。西軍の諸艦は拍を發して皆な盡き，然る後に**量**等は大艦を以て之を拍ち，西軍の艦は皆な碎け，中流に沒す。西軍も又た艦を以て薪を載せ，風に因りて火を縱つ。俄に而して風は轉じ，自ら焚き，西軍は大敗す。**皎**は**戴僧朔**と單舸にして走り，巴陵を過ぎ，敢えて岸に登らず，逕ちに江陵に奔る。衛公の**直**も亦た江陵に奔る。

■●［元定は徐度に騙され憤恚死］**元定**は孤軍にして，進退は路無く，竹を斫り徑を開き，且つ戰い且つ引く。巴陵に趣かんと欲し，巴陵は已に**徐度**等の據る所と為り，**度**等は遣使して偽りて與に結盟し，之を縱ちて國に還るを許す。**定**は之を信じ，仗を解き**度**に就き，**度**は之を執り，盡く其の衆を俘とし，並せて梁の大將軍の**李廣**を擒とす。**定**は憤恚し而して卒す。

■●［章昭裕等は縁故により許される］**皎**の黨の**曹慶**等の四十（下×）餘人は並せて伏して誅せらる。唯だ

岳陽太守の**章昭裕**は，**昭達**之弟なり，桂陽太守の**曹宣**は，**高祖**の舊臣なり，衡陽內史の汝陰の**任忠**は，嘗て密啟有るを以て，皆な之を宥す。

■後梁**吳明徹**は勝ちに乗りて梁の河東（湖北省荊南道松滋県に河東郡を置く）を攻め，之を拔く。

●後梁［梁主は殷亮を誅殺］周の衛公の**直**は罪を梁（樑×）の柱國の**殷亮**に歸す。**梁主**は其の罪に非ざるを知り，**(10-072p)** 然るに敢えて違わず，遂に之を誅す。

●■周は陳と既に交々惡く，周の沔州（五代志に、沔陽郡甑山県に梁は梁安郡を置く。西魏は改めて魏安郡といい、江州を置く。廃帝三年に改めて沔州とす。湖北省江漢道沔陽県、現・仙桃市）刺史の**裴寬**は襄州の總管に白し，請いて戍兵を益し，並せて城を羊蹄山（陽臺山、湖北省江漢道漢川県の南、現・孝感市漢川市）に遷し以て水を避けんとす。總管の兵は未だ至らず，**程靈洗**の舟師は城下に奄至す。會々大雨ふり，水は暴漲し，**靈洗**は大艦を引いて城に臨み拍を發し，樓堞を擊ちて皆な碎き，矢石は晝夜之を攻めること三十餘日。陳人は城に登り，**寬**は猶ほ衆を帥いて短兵を執り拒み戰う。又た二日，乃ち之を擒とす。

北齊丁巳（53-35+1=１９日），齊の**上皇**は晉陽に如く。山東は水（洪水）あり，饑えて，殭屍は道に滿つ。

■**冬，十月**，甲申（20-4+1=１７日），**帝**は太廟に享す。

■**十一月**，戊戌（34-34+1=１日）朔，日之を食する有り。

北齊丙午（42-34+1=９日），齊は大赦す。

●癸丑（49-34+1=１６日），周は穆公の**宇文貴**が突厥より還るを許すも，張掖に卒す。

北齊齊の**上皇**は鄴に還る。

●**十二月**，周の晉公の**護**の母は卒し，詔して起ちて，事を視令む。

北齊［上皇は祖珽を地牢に入れ、失明す］齊の秘書監の**祖珽**は，黃門侍郎の**劉逖**と友善す。**珽**は宰相を求めんと欲し，乃ち**趙彦深**、**元文遙**、**和士開**の罪狀を疏し，**逖**をして之を奏せ令め，**逖**は敢えて通ぜず。**彦深**等は之を聞き，先ず**上皇**に詣りて自ら陳ず。**上皇**は大いに怒り，**珽**を執り，之を詰り，**珽**は因りて**士開**、**文遙**、**彦深**等の朋黨が、權を弄び、官を賣り、獄を鬻ぐの事を陳ず。**上皇**は曰く、

「爾は乃ち我を誹謗するや！」

**珽**は曰く、

「臣は敢えて誹謗せず，**陛下**は人の女を取る。」

**上皇**は曰く、

「我は其の饑饉を以て，之を收養する耳。」

**珽**は曰く、

「何ぞ倉を開きて振給せざるや，乃ち後宮に買い入れる乎？」

**上皇**は益々怒り，刀環を以て其の口を築き，鞭杖亂下し，將に之を撲殺せんとす。**珽**は呼びて曰く、

「**陛下**は臣を殺す勿れ，臣は**陛下**の為に金丹を合す。」

遂に少しく寬なるを得る。**珽**は曰く、

「**陛下**は一**范增**有り（漢の高祖の言）て用いる能わず。」

**上皇**は又た怒りて曰く、

「爾は自ら**范增**に比す，我を以て**項羽**と為す邪？」

**珽**は曰く、

「**項羽**は布衣にして，烏合之衆を帥いて，五年而して霸業を成す。**陛下**は父兄之資に藉（よ）り，才（わずか）に此に至

るを得たり，臣は以為うに**項羽**は未だ輕んず可きこと易からず。」
**上皇**は愈々怒り，土を以て其の口を塞が令む。**珽**は且つ吐き且つ言い，乃ち鞭うつに二百，甲坊に配し，尋いで光州（五代志に、東萊郡に旧光州を置く。山東省膠東道掖県、現・煙台市萊州市）に徙し，敕令して牢掌の別駕の**張奉福**に曰く、
「牢者，地牢也。」
乃ち地牢の中に置き，桎梏（手枷足枷）は身を離さず。夜は蕪菁子（本艸に曰く、蕪菁は明目を主ると。今珽は是に由りて明を失う・蓋し其の子は是を餌するときは明目、之を以て燭と為すときは、烟は眼を熏して明を失う）を以て燭と為し，眼は熏する所と為り，是に由りて失明す。
北齊［畢義雲殺害の犯人は?］齊の七兵尚書の**畢義雲**は治を為すこと酷忍にして，人理の及ぶ所に非ず，家に於いて尤も甚だし。**(10-073p)** 夜盜の殺す所と為り，其の刀を遺(のこ)し，之を驗ずるに，其の子の**善昭**の佩する所の刀也。有司は**善昭**を執り，之を誅す。（胡三省曰く、情を以て之を観れば、善昭は果たして其の父を弑せしならば、必ず刀を遺して以て驗を待たざるならん。蓋し盜は此の計を為し、以て其の子を殺ししなりと）

## 臨海王光大二年（戊子，５６８年）

■**春，正月**，己亥（35-33+1=３日），安成王の**頊**は位を太傅に進め，司徒を領し，殊禮を加える。
●辛丑（37-33+1=５日），**周主**は南郊に祀す。
北齊癸亥（59-33+1=２７日），**齊主**は兼散騎常侍の**鄭大護**をして來聘せ使む。
■湘東忠肅公の**徐度**（509 年-568 年）は卒す。
●**二月**，丁卯（3-2+1=２日），**周主**は武功に如く。

突厥●北齊［突厥の木桿可汗は女を周に納れる］突厥の**木桿可汗**は周に貳（二心）あり，更に齊人に許すに昏を以てし，陳公の**純**（前巻文帝天嘉六年に女を迎える）等を留めて數年返さず。會々大雷風あり，其の穹廬を壞し，旬日止まず。**木桿**は懼れ，以て天譴と為し，即ち禮を備え其の女を周に送り，**純**等は之を奉じて以て歸る。**三月**，癸卯（39-32+1=８日），長安に至り，**周主**は親ら迎えるの之禮（敵国の禮）を行う。甲辰（40-32+1=９日），周は大赦す。
北齊乙巳（41-32+1=１０日），齊は東平王の**儼**を以て大將軍と為し，南陽王の**綽**を司徒と為し，開府儀同三司の**徐顯秀**を司空と為し，廣寧王の**孝珩**を尚書令と為す。
●［周の於謹は卒す］戊午（54-32+1=２３日），周の燕文公の**於謹**は卒す。**謹**は勳高く位重く，而るに上に事えること益々恭々しく，朝參する毎に，從う所は二三騎に過ぎず。朝廷に大事有れば，多く**謹**と之を謀る。**謹**は忠を盡くして益を補い，功臣中に於いて特に親信せられ，禮遇の隆重なること，始終間無し。諸子を教訓し，務めて靜退を存せしめ，而して子孫は蕃衍し，率ね皆な顯達なり。

■後梁●［梁は吳明徹を擊退］**吳明徹**は勝ち（沌口の勝ち）に乘りて進みて江陵を攻め，水を引いて之を灌し，**梁主**は出でて紀南（湖北省荊南道江陵県の北十餘里に紀南城有り、現・荊州市江陵県）に頓し以て之を避ける。周の總管の**田弘**は**梁主**に從い，副總管の**高琳**は梁の僕射の**王操**と江陵三城を守り，晝夜拒みて戰うこと十旬なり。梁の將の**馬武**、**吉徹**は**明徹**を擊ち，之を敗る。**明徹**は退きて公安を保ち，**梁主**は乃ち還るを得る。
●**夏，四月**，辛巳（7-1+1=７日），周は**達奚武**を以て太傅と為し，**尉遲迥**を太保と為し，齊公の**憲**を大司

馬と為す。
北齊齊の**上皇**は晉陽に如く。
北齊齊の尚書左僕射の**徐之才**は醫を善くし，**上皇**は疾有り，**之才**は之を療し，既に愈え，中書監の**和士開**は次遷を得んと欲し，乃ち**之才**を出して兗州刺史と為す。**五月**，癸卯（39-31+1=９日），尚書右僕射の**胡長仁**を以て左僕射と為し，**士開**を右僕射と為す。**長仁**は，**太上皇后**之兄也。
●庚戌（46-31+1=１６日），**周主**は太廟を享ける。庚申（56-31+1=２６日），醴泉宮（漢の甘泉宮の旧地。漢の馮翊池陽県の西、陝西省關中道醴泉県、現・咸陽市礼泉県）に如く。**(10-074p)**
北齊壬戌（58-31+1=２８日），齊の**上皇**は鄴に還る。
●［隋の楊堅は初登場］**秋，七月**，壬寅(38-30+1=９日)，周の隨の桓公の**楊忠**は卒し，子の**堅**は爵を襲う。**堅**は開府儀同三司、小宮伯（北周は左右宮伯を置き、侍衛の禁を掌り、各々更に擊ちに直す。小宮伯は之に似る）為り，晉公の**護**は引いて以て腹心と為さんと欲す。**堅**は以て**忠**に白し，**忠**は曰く、
「兩姑之間は婦と為り難し，汝は其れ往く勿かれ！」
**堅**は乃ち之を辭す。
■丙午（42-30+1=１３日），**帝**は太廟を享ける。
●戊午（54-30+1=２５日），**周主**は長安に還る。
■壬戌（58-30+1=２９日），皇弟の**伯智**を封じて永陽王と為し，**伯謀**を桂陽王と為す。
北齊●**八月**，齊は和を周に請い，周は軍司馬の**陸程**等を遣わして齊に聘す。**九月**，丙申（32-29+1=４日），齊は侍中の**斛斯文略**をして之を報ぜ使む。
●**冬，十月**，癸亥（59-58+1=２日），**周主**は太廟に享す。
■庚午（6+60-58+1=９日），**帝**は太廟に享す。
北齊辛巳（7+60-58+1=１０日），齊は廣寧王の**孝珩**を以て尚書事を錄さしめ，左僕射の**胡長仁**を尚書令と為し，右僕射の**和士開**を左僕射と為し，中書監の**唐邕**を右僕射と為す。
■**十一月**，壬辰（28-28+1=１日）朔，日之を食する有り。
北齊■齊は兼散騎常侍の**李諧**を遣わして來聘せしむ。
●甲辰（40-28+1=１３日），**周主**は岐陽に如く。
●北齊周は開府儀同三司の**崔彦**等を遣わして齊に聘せしむ。
■［皇帝廃絶、伯茂誅殺、陳項簒奪］始興王の**伯茂**は安成王の**項**の專政を以て，意は甚だ不平なり，屢々肆に惡言す。甲寅（50-28+1=２３日），（項は）**太皇太后令**を以て，**帝**を誣いて，雲わく、
「**劉師知**、**華皎**等と通謀す。」
且つ曰く、
「**文皇**は子を知る之鑒，事は**帝堯**に等し。弟に傳える之懷（おもい），又た**太伯**に符す。今還りて曩（さき）の志を申べ，賢君を崇び立てる可し。」
遂に**帝**を廢して**臨海王**と為し，**安成王**を以て入りて纂（つ）がしむ。又た下令し，**伯茂**を黜（しりぞ）けて溫麻侯（県侯、晉の武帝は溫麻船屯を以て県を立てる。福建省閩海道連江県の北、現・福州市に連江県）と為し，諸を別館に置き，**安成王**は盜をして之を道に於いて邀え使め，之を車中に殺す。

## 【北齊の上皇崩御と緩和策】

北齊［上皇は殂す］齊の**上皇**は疾作（おこ）り，驛して**徐之才**を追い，未だ至らず。辛未（十二月、7+60-57+1=1

１日），疾は亟（すみやか）なり，後事を以て**和士開**に屬し，其の手を握りて曰く、
「我に負く勿れ也！」
遂に**士開**之手に殂す（年 32）。明くる日，**之才**は至り，復た遣りて州（兗州）に還らしむ。
北齊［和士開は喪を秘す］**士開**は喪を秘すこと三日發せず。黄門侍郎の**馮子琮**は其の故を問い，**士開**は曰く、
「**神武**（160 巻梁の武帝太清元年にあり）、**文襄**（162 巻太清三年にあり）之喪は，皆な秘して發せず。今**至尊**は年少なり，王公の貳心の者有らんを恐れ，意は盡く涼風堂に追集せんと欲し，然る後に公と之を議せん。」（10-075p）
**士開**は素より太尉錄尚書事の趙郡王の**睿**及び領軍の**婁定遠**を忌み，**子琮**は其の遺詔を矯めて**睿**を外に出し，**定遠**の禁兵を奪わんことを恐れ，乃ち之を說いて曰く、
「**大行**は先ず已に位を**今上**に傳え，群臣の富貴なる者は，皆な**至尊**父子之恩なり，但だ在內の貴臣をして一に改易無から令めば，王公は必ず異志無からん。世異に事殊なり，豈に霸朝（高歡、高澄と未だ則ち魏を簒わず、魏の政を握る。北齊の君臣は皆之を霸朝という）と相い比するを得んや！且つ公は宮門を出でざること已に數日，升遐（升は上、遐は已、上已は仙去、則ち崩御）之事は，行路皆な傳え，久しく而して舉げ（哀を挙げ服を成さざるを謂う）ざれば，恐らくは他變有らん。」
**士開**は乃ち喪を發す。
北齊［馮子琮を鄭州刺史に出す］丙子（12+60-57+1=１６日），大赦す。戊寅（14+60-57+1=１８日），**太上皇后**を尊びて**皇太后**と為す。侍中尚書左僕射の**元文遙**は，**馮子琮**が，**胡太后**之妹の夫なるを以て，其の**太后**を贊けて朝政に干預するを恐れ，趙郡王の**睿**、**和士開**と謀り，**子琮**を出して鄭州刺史と為す。
北齊［世祖の酷政を緩和］**世祖**は驕奢にして淫泆，役は繁く賦は重く，吏民は之を苦しむ。甲申（20+60-57+1=２４日），詔す、
「所在の百工細作は，悉く之を罷める。鄴下、晉陽、中山の宮人（三都に宮有り）、官口（罪人の家口の官に没して奴婢となる者）之老病なる者は，悉く簡放す。諸家の緣坐（緣戚による連座）して流所に在る者は，還るを聽す。」

●［趙文表は恆稜獠を下す］周の梁州の恆稜獠（所在は堅固にして方数百里、群獠之に居る）は叛し，總管長史の南鄭の**趙文表**は之を討つ。諸將は四面より進攻せんと欲し，**文表**は曰く、
「四面より之を攻めれば，獠は生きる路無く，必ず死を盡くして以て我を拒まん，未だ克つ可きに易からず。今吾は示すに威恩を以てし，惡を為す者は之を誅し，善に從う者は之を撫す。善惡は既に分かれ，之を破るは易し矣。」
遂に此の意を以て遍く軍中に令す。時に從軍の熟獠（境上の內附する者）有り，多くは恆稜と親識なり，即ち實を以て之に報ず。恆稜は猶豫して未だ決せず，**文表**の軍は已に其の境に至る。獠中先に二路有り，一は平なりて一は險なり，獠帥の數人有りて來たりて鄉導と為るを請う。**文表**は曰く、
「此の路は寬平なり，導を為すを須いず。卿は但だ先行して好く子弟を慰諭し，來降せ使むべき也。」
乃ち之を遣る。**文表**は諸將に謂って曰く、
「獠帥は吾が寬路より而して進むと謂い，必ず伏を設けて以て我を邀えん，當に更に其の不意に出ん。」
乃ち兵を引いて狹路より入り，高に乘り而して望めば，果たして伏兵有り。獠は既に計を失い，爭いて衆を帥いて來降す。文表は皆な之を慰撫し，仍って其の租稅を征し，敢えて違う者無し。周人は**文表**を以て蓬州（漢の宕渠の地、李勢の時に獠の拠る所と為る。蕭の齊は帰化郡を立て、梁は安固県及び伏虞郡を置く。北周は蓬州を置く。名は蓬

山による。四川省嘉陵道営山県の界、現・南充市営山県）刺史と為す。

## 高宗宣皇帝上之上、臨海王太建元年（己丑，５６９年）

●**春，正月**，辛卯（27-27+1=１日）朔，**周主**は齊の**世祖**之喪を以て朝會を罷め，司會の**李綸**を遣わして（10-076p）吊賻（弔問し貨財を贈る）し，且つ會葬す。

■［陳項の皇帝即位］甲午（30-27+1=４日），**安成王**は**皇帝**に即位し，改元し，大赦す。**太皇太后**を復して**皇太后**と為し，**皇太后**を**文皇后**と為す。妃の**柳氏**を立てて**皇后**と為し，世子の**叔寶**を**太子**と為す。皇子の**叔陵**を封じて始興王と為し，**昭烈王**の祀りを奉ぜしむ（文帝は伯茂に継がせたが、帝ははこれを殺した）。乙未（31-27+1=５日），**上**は太廟を謁す。丁酉（33-27+1=７日），尚書僕射の**沈欽**を以て左僕射と為し，度支尚書の**王勱**を右僕射と為す。**勱**は，**份**（奐の弟、肅の叔父）之孫也。

■辛丑（37-27+1=１１日），**上**は南郊を祀る。壬寅（38-27+1=１２日），皇子の**叔英**を封じて豫章王と為し，**叔堅**を長沙王と為す。戊午（54-27+1=２８日），**上**は太廟に享す。

北齊［文簡王濟の誅殺］齊の博陵の文簡王の**濟**は，**世祖**之母の弟也，定州刺史為り，人に語りて曰く、「次敘（兄弟の次ならば天子）當に我に至るべし矣。」

**齊主**は之を聞き，陰に人をして州に就きて之を殺さ使め，葬贈すること禮の如し。

■**二月**，乙亥（11+60-57+1=１５日），**上**は藉田を耕す。

北齊甲申（20+60-57+1=２４日），齊は**武成帝**を永平陵に葬し，廟號を**世祖**とす。己丑（25+60-57+1=２９日），齊は東平王の**儼**を徙して琅邪王と為す。

北齊●齊は侍中の**叱列長叉**を遣わして周に聘さしむ。

### 【和士開は趙郡王睿を追い落とす】

北齊［太后は高睿等の八貴左遷を拒否］齊は司空の**徐顯秀**を以て太尉と為し，並省の尚書令の**婁定遠**を司空と為す。初め，侍中、尚書右僕射の**和士開**は，**世祖**の親狎する所と為り，臥内に出入し，復た期度無く，遂に**胡后**の幸を得る。**世祖**の殂するに及び，**齊主**は**士開**が顧托を受けるを以て，深く之に委任し，威權は益々盛んなり。**婁定遠**及び錄尚書事の**趙彦深**、侍中尚書左僕射の**元文遙**、開府儀同三司の**唐邕**、領軍の**綦連猛**（其の先は姫氏、六国の末に乱を避けて塞を出て祁連山に保す。因りて山を以て姓と為し訛る。何時節には西方の諸部に出る）、**高阿那肱**、度支尚書の**胡長粲**と倶に事を用い，時に「八貴」と號す。太尉の趙郡王の**睿**、大司馬の馮翊王の**潤**、安德王の**延宗**は**婁定遠**、**元文遙**と皆な**齊主**に言う，

「請う**士開**を出して外任と為さん。」

會々**胡太后**は朝貴を前殿に觴し，**睿**は面のあたりに**士開**の罪失を陳じて云う、

「**士開**は**先帝**の弄臣なり，城狐社鼠にして，貨賂を受納し，宮掖を穢亂す。臣等は義口を杜じる無く，死を冒して之を陳ず。」

**太后**は曰く、

「**先帝**在る時，王等は何ぞ言わざるや！今孤寡を欺(あざ)むかんと欲する邪？且つ飲酒して，多言する勿かれ！」

**睿**等は辭色（詞色×）愈々厲し。儀同三司の**安吐根**（安息パルティアの胡人、天平の初めに柔然の主使は晉陽に至る、安吐根は密かに柔然の情状を啓す。高官は因りて之が備えを為す。柔然は入寇して獲る無くして返る。その後高歡は柔然と和親し婚姻する。安吐根は行人と為り、既に而して高官に帰す）は曰く、

「臣は本は商胡なり，諸貴の行末に在るを得たり，既に厚恩を受けて，豈に敢えて死を惜しまんや！**士開**を出さざれば，朝野は定まらず。」

**太后**は曰く、

「異日之を論じん，王等は且く散じるべし！」

**睿**等は或は冠を地に投じ，或は衣を拂い而して起つ。明くる日，**睿**等は復た雲龍門に詣り，**文遙**をして入りて之を（10-077p）奏せ令め，三返すれども，**太后**は聽さず。左丞相の**段韶**は**胡長粲**をして**太后**の言を傳えて曰わ使む、

「梓宮は殯に在り，事は太だ忽忽なり，王等が更に之を思うを欲す！」

**睿**等は遂に皆な拜謝す。**長粲**は覆命し，**太后**は曰く、

「妹母子の家を成す者は，兄（長粲は胡太后の兄）之力也。」

厚く**睿**等に賜いて，之を罷む。

北齊［太后は百日和士開を留めんとす］**太后**及び**齊主**は召して**士開**に問い，對えて曰く、

「**先帝**は群臣之中に於いて，臣を待つこと最も厚し。**陛下**の諒暗は始めて爾り，大臣は皆な覬覦有り。今若し臣を出せば，正に是れ**陛下**の羽翼を剪るなり。宜しく**睿**等に謂いて云うべし、『**文遙**は臣と，俱に**先帝**の任用を受け，豈に一は去り一は留まる可けんや！並びに用って州と為す可し，且く出納するは舊の如し（尚書は帝命を出納することは、且く旧の如く職を領せしむ）。山陵を過ぎるを待ち，然る後に之を遣るべし。』**睿**等は臣が真に出でるを謂い，心は必ず之を喜ばん。」

**帝**及び**太后**は之を然りとし，**睿**等に告げること其の言の如し。乃ち**士開**を以て兗州刺史（滑台に治す）と為し，**文遙**を西兗州刺吏（同じく滑台に治す）と為す。葬畢わり，**睿**等（等睿×）は**士開**を促して路に就かしむ。**太后**は**士開**を留めて百日（古は葬日虞し、既に三虞し、剛日を用いて卒哭す。後人は百日にして卒哭す）を過ぎんと欲し，**睿**は許さず。數日之內に，**太后**は數々以て言を為す。中人の**太后**の密旨を知る者有り。**睿**に謂って曰く、

「**太后**の意は既に此くの如し，**殿下**は何ぞ宜しく苦違すべけんや！」

**睿**は曰く、

「吾は委を受けること輕からず。今**嗣主**は幼沖なり，豈に邪臣をして側に在ら使む可けんや！之を守るに死を以てせざれば，何の面ありてか天を戴かん！」

遂に更に**太后**に見え，之に苦言す。**太后**は酒を酌み**睿**に賜わ令め，**睿**は正色して曰く、

「今國家の大事を論ず，卮酒（杯酒）の為に非ず！」

言い訖り，遽に出ず。

北齊［和士開の居座りの計］**士開**は美女珠簾を載せて**婁定遠**に詣り，謝して曰く、

「諸貴は**士開**を殺さんと欲す，王（武成帝は婁定遠を臨淮郡王に封じる、故に王とす）の力を蒙り，特に其の命を全くし，用って方伯と為す。今當に奉別すべし，謹んで二女子、一珠簾を上る。」

**定遠**は喜び，**士開**に謂って曰く、

「還りて入るを欲するや不や？」

**士開**は曰く、

「內に在ること久しく自ら安んじず，今出るを得れば，實に本志を遂ぐ，更に入るを願わず。但だ王の保護を乞う，長く大州の刺史と為れば足らん矣。」

**定遠**は之を信じる。送りて門に至り，**士開**は曰く、

「今當に遠く出ずべし，願わくは一たび二宮に辭覲するを得ん。」

**定遠**は之を許す。**士開**は是に由りて**太后**及び**帝**に見えるを得，進みて說いて曰く、
「**先帝**は一旦登遐し，臣は自ら死せる能わざるを愧ず。朝貴の意勢を觀るに，**陛下**を以て乾明（齊の濟南王の年号なりの、168 巻文帝天嘉元年にあり）と為さんと欲す。臣出ずる之後，必ず大變有り，臣は何の面目ありてか**先帝**に地下に見えん！」
因りて慟哭す。**帝**、**太后**は皆な泣き，問う、
「計は安くにか出でん？」
**士開**は曰く、
「臣は已に入るを得る，復た何の慮る所あらん，正に數行の詔書を須いる耳。」
是に於いて詔して**定遠**を出して青州刺史と為し，趙郡王の**睿**（續は叡、珽×）を責めるに不臣之罪を以てす。
北齊［和士開大逆転、睿は誅殺される］旦日，**睿**は將に復た入りて諫めんとし，妻子は鹹な之を止め，**睿**は曰く、
「社稷の事は重し，吾は寧ろ死して**先皇**に事えるとも，（10-078p）朝廷の顛沛するを見るに忍びず。」
殿門に至り，又た人有り謂って曰く、
「**殿下**は入る勿れ，恐らくは變有らん。」
**睿**は曰く、
「吾は上（かみ）は天に負（そむ）かず，死して亦た恨み無し。」
入りて，**太后**に見え，**太后**は復た以て言を為す，**睿**は之を執りて彌々固し。出でて，永巷に至り，兵に遇い，執りて華林園の雀離佛院（釋氏西域記に亀茲哭の北四十里の山上に寺有り、名づけて雀離大清浄という。故に倣いて仏院を立てる）に送り，**劉桃枝**をして之を拉殺せ令む。**睿**は久しく朝廷を典り，清正にして自ら守り，朝野は之を冤として惜しむ。復た**士開**を以て侍中、尚書左僕射と為す。**定遠**は**士開**が遺る所を歸し，加えるに餘珍を以て之に賂（まいない）す。

## 【齊主は嬖寵多し】

北齊三月，**齊主**（齊王×）は晉陽に如く。**夏，四月**，甲子（60-56+1=５日），并州の尚書省を以て大基聖寺と為し，晉祠（太原郡晉陽県にあり、山西省冀寧道太原県、現・太原市晋源区）を大崇皇寺と為す。乙丑（1+60-56+1=６日），**齊主**は鄴に還る。
北齊［齊主は高阿那肱を寵愛］**齊主**は年少く，嬖寵（寵愛）多し。武衛將軍の**高阿那肱**は，素より諂佞を以て**世祖**及（琢×）び**和士開**の厚き所と為り，**世祖**は多く東宮に在りて**齊主**に侍せ令め，是に由りて寵有り，累遷して並省尚書令と為り，淮陰王に封じられる。
北齊［齊主は韓長鸞に親愛］**世祖**は都督（齊の左右衛府は左右府其の御杖屬官を領し、各々正副都督有り）二十人を簡び，東宮に侍衛せ令む，昌黎の**韓長鸞**は焉に預り，**齊主**は獨り**長鸞**を親愛す。**長鸞**の名は**鳳**，字を以て行われ，侍中、領軍に累遷し，內省の機密を總知す。
北齊［後宮の女侍中の陸令萱］宮婢の**陸令萱**なる者あり，其の夫の漢陽の**駱超**は，謀叛に坐して誅せられ，**令萱**は掖庭に配し，子の**提婆**も亦た沒して奴と為る。**齊主**（齊王×）之襁褓（おむつ）に在るや，**令萱**は之を保養す。**令萱**は巧黠（狡猾）にして，善く媚を取り，**胡太后**に寵有り，宮掖之中，獨り威福を擅にし，封ぜられて郡君と為り，**和士開**、**高阿那肱**は皆な之が養子と為る。**齊主**は**令萱**を以て女侍中（北魏の孝文帝は內官を改定し、左右昭儀・三夫人・九嬪・世婦・御女の外に、內職を置き、典內司・女侍中等の官あり）と為す。**令萱**は**提婆**（仏教の大悪人）を引いて入りて**齊主**に侍せしめ，朝夕戲狎し，累遷して開府儀同三司、虎衛大將軍に至る。宮

人の**穆捨利**なる者は，**斛律后**之従婢也，**齊主**（齊王×）に寵有り。**令萱**は之に附かんと欲し，乃ち之の養母と為り，薦めて**弘德**（河清の新令に、弘德・崇德・正德の三夫人は位は三公に比す）**夫人**と為し，因りて**提婆**をして姓**穆氏**を冒さ令む。然して**和士開**は事を用いること最も久しく，諸幸臣は皆な之に依附し，以て其の寵を固める。

北齊［祖珽の復活］**齊主**は**祖珽**を思い（齊主は内禅を受けるや、祖珽は共謀を啓す），流囚（去年光州に徙される）の中に就きて海州（五代志に、東海郡に梁は南北二青州を置く。東魏は改めて海州と為す。江蘇省徐海道東海・灌雲二県の地、現・連雲港市東海県・連雲港市灌雲県）刺史に除す。**珽**は乃ち**陸媼**（陸令萱）の弟の儀同三司の**悉達**に書を遺りて曰く、

「**趙彦深**は心腹陰沉（続は深沈）にして，**伊**、**霍**の事を行わんと欲し，儀同姊弟は豈に平安なるを得んや，何ぞ早く智士を用いざる邪！」

**和士開**も亦た**珽**が膽略有るを以て，引いて謀主と為さんと欲し，乃ち舊怨を棄て，虚心に之を待ち，**陸媼**と**帝**に言って曰く、

「**襄**（文襄）、**宣**（文宣）、**昭**（孝昭）三帝之子は，皆な立つを得ず。今**至尊**は獨り帝位に在る者，祖の**孝征**之力也。人功有れば，報いざる可からず。**孝征**（続は孝徵、祖珽の字）は心行薄しと雖も，奇略は人に出で，緩急は使う可し。**(10-079p)** 且つ其の人は已に盲し，必ず反心無からん。請う呼び取り，問うに籌策を以てす。」

**齊主**（齊王×）は之に従い，召し入れ，秘書監と為し，開府儀同三司を加える。

北齊［胡長仁の誅殺］**士開**は譖す、

「尚書令の隴東王の**胡長仁**(胡長×)は驕恣なり」

と，出して齊州刺史と為す。**長仁**は怨憤し，刺客を遣わして**士開**を殺さんと謀る。事は覺われ，**士開**は**珽**と之を謀り，**珽**は漢の**文帝**の**薄昭**（14 巻漢の文帝十年にあり、胡長仁は帝の舅なり、故に引く）を誅するの故事を引きて，遂に遣使して州に就きて死を賜わしむ。

●**五月**，庚戌（46-25+1=２２日），**周主**は醴泉宮に如く。

■丁巳（53-25+1=２９日），吏部尚書の**徐陵**を以て左僕射と為す。

■**秋，七月**，辛卯（27-24+1=４日），**皇太子**は妃の**沈氏**を納れる，吏部尚書の**君理**之女也。

●辛亥（47-24+1=），**周主**は長安に還る。

●北齊**八月**，庚辰（16+60-54+1=２３日），盜は周の孔城（漢晉の河南の新城県に、北魏は新城郡を置き、孔城に治す。河南省河洛道洛陽県の南、現・洛陽市洛竜区）の防主を殺し，其の地を以て齊に入る。

●**九月**，辛卯（27-23+1=５日），周は齊公の**憲**を遣わして柱國の**李穆**と兵を將いて宜陽（河南省河洛道宜陽県、現・洛陽市宜陽県）に趣き，崇德等五城を築く。

■［歐陽紇の反乱］**歐陽紇**は廣州に在ること十餘年（武帝永定二年に歐陽紇は父の頠と廣州を定める、ここまで十二年），威惠は百越に著わる。**華皎**之叛より，**帝**の心は之を疑い，征して左衛將軍と為す。**紇**は恐懼し，其の部下の多くは之に反すを勸め，遂に兵を舉げて衡州（始興の衡州。五代志に南海郡始興県に梁は安遠郡及び東衡州を置くと。広東省嶺南道始興県、現・韶關市始興県）刺史の**錢道戢**を責める。

■**帝**は中書侍郎の**徐儉**を遣わして節を持して諭旨す。**紇**は初め**儉**を見て，仗衛を盛んにして，言辭は恭々しからず。**儉**は曰く、

「**呂嘉**之事（20 巻漢の武帝元鼎五年六年にあり）は，誠に當に已遠にして，將軍は獨り**周迪**（周邊×）、**陳寶應**を見

ず乎！禍を轉じて福と為す、，未だ晩(おそ)しと為らざる也。」
**紇**は默然として應じず，**儉**を孤園寺に置き，累旬還るを得ず。**紇**は嘗て出でて**儉**を見，**儉**は之に謂って曰く、
「將軍の業は已に事を舉げ，**儉**は須く還りて**天子**に報じるべし。**儉**之性命は，將軍に在ると雖も，將軍の成敗は，**儉**に在らず，幸いにも留められず。」
**紇**は乃ち**儉**を遣り還す。**儉**は，**陵**（陳朝の貴顯）之子也。
■**冬，十月**，辛未（7+60-53+1=１５日），車騎將軍の**章昭達**に詔して**紇**を討たしむ。
■壬午（18+60-53+1=２６日），**上**は太廟に享す。
●**十一月**，辛亥（47-22+1=２６日），周の鄫文公の**長孫儉**は卒す。
北齊辛丑（37-22+1=１６日），齊は**斛律光**を以て太傅と為し，馮翊王の**潤**を太保と為し，琅邪王の**儼**を大司馬と為す。**十二月**，庚午（6+60-52+1=１５日），蘭陵王の**長恭**を以て尚書令と為す。庚辰（16+60-52+1=２５日），中書監の**魏收**を以て左僕射と為す。
●北齊周の齊公の**憲**等は齊の宜陽を圍（周×）み，其の糧道を絕つ。
■●［陳と周の修好再開］**華皎**之亂より，周人と絕ち，是に至りて周は御正大夫の**杜杲**を遣わして來聘せしめ，**(10-080p)**復た舊好を修めるを請う。**上**は之を許し，遣使して周に如かしむ。

## 臨海王太建二年（庚寅，５７０年）

北齊**春，正月**，乙酉（21-21+1=１日）朔，齊は改元して武平とす。齊の東安王（東安郡王、五代志に琅邪郡沂水県に梁は陽春県を置くと、山東省濟寧道沂水県、現・臨沂市沂水県東安村）の**婁睿**は卒す。
■丙午（42-21+1=２２日），**上**は太廟に享す。
■北齊戊申（44-21+1=２４日），齊は兼散騎常侍の**裴讜之**をして來聘せ使む。
北齊●［斛律光は宜陽を救援成功］齊の太傅の**斛律光**は，步騎三萬を將いて宜陽を救い，屢々周軍を破り，統關、豐華の二城を築き以て宜陽の糧道を通じ而して還る。周軍は之を追い，**光**は縱に擊ち，又た之を破り，其の開府儀同三司の**宇文英**、**梁景興**を獲る。**二月**，己巳（5+60-51+1=１５日），齊は**斛律光**を以て右丞相、并州刺史と為し，又た任城王の**湝**（續による）を以て太師と為し、**賀拔仁**（賀拔×）をして尚書事を錄さしむ。

### 【歐陽紇の討伐】

■［馮僕は国に反かず］**歐陽紇**は陽春（五代志に、高涼郡陽春県に梁は陽春郡を置くと。広東省高雷道陽春県、現・陽江市陽春市）太守の**馮僕**を召して南海に至らしめ，誘いて與に同じく反す。**僕**は遣使して其の母の**洗夫人**に告げる。夫人は曰く、
「我は忠貞を為し，今に經ること兩世（馮僕と父の馮融），汝を惜みて國に負く能わず。」
遂に兵を發して境を拒み，諸々の酋長を帥いて**章昭達**を迎える。
■［章昭達は陽春を破る］**昭達**は倍道兼行して，始興に至る。**紇**は**昭達**の奄至するを聞き，恇擾して為す所を知らず，出でて洭口（水經注に洭水は桂陽県盧聚の東南に出で、含洭県の南を過ぎ、洭浦關を出で、右して湊水に合す。これを洭口と謂うと。含洭の故城は広東省嶺南道英徳県の西、現・清遠市陽山県）に頓し，多く沙石を聚め，盛るに竹籠を以てし，水柵之外に置き，用て舟艦を遏(とど)む。**昭達**は上流に居り，艦を裝い拍を造り，軍人をして刀を銜みて水

中を潜行し，以て籠，篾を斫ら令め皆な解く。因りて大艦を縦ちて流れに隨いて之を突き，**紇**の衆は大いに敗れ，**紇**を生きて擒とす，之を送る。癸未（19+60−51+1=２９日），建康の市に於いて斬る。

■［蕭引は獨り恬然］**紇**之反する也，士人の流寓して嶺南に在る者は皆な惶駭す。前著作佐郎の**蕭引**は獨り恬然として，曰く、

「**管幼安**（管寧、字は幼安、公孫度に依る。度は其の賢に安んず。魏の文帝の初めに遂に郷里に還る）、**袁曜卿**（袁渙、字は曜卿、呂布の拘うる所と為り、而もその脅す所と為らず、呂布敗れて魏武に帰す）は，亦た但だ安坐する耳。君子は己を直にして以て義を行えば，何の憂懼する乎！」

**紇**は平らぎ，**上**は征して金部侍郎（財帛の委輸を主る）と為す。**引**は，**允**（162 巻梁の武帝太清三年にあり）之弟也。

■［馮僕の母洗氏に破格の待遇］**馮僕**は其の母の功を以て，信都侯に封ぜられ，石龍（郡、広東省高雷道化県の東北、現・茂名市化州市）太守に遷り，使者を遣わして節を持し**洗氏**を冊命して石龍太夫人と為し，繡幰（縫い取りした車の幌）油絡の駟馬安車一乗を賜わり，鼓吹一部，並びに麾幢旌節を給し，其の鹵簿は一に刺史之儀の如し。

■**三月**，丙申（32−20+1=１３日），**皇太后**の**章氏**は殂す。

北齊戊戌（34−20+1=１５日），齊の安定の武王の**賀拔仁**は卒す。

■丁未（43−20+1=２４日），大赦す。

●**夏，四月**，甲寅（50−50+1=１日），周は柱國の**寶文盛**を以て大宗伯と為す。**(10−081p)**

●**周主**は醴泉宮に如く。

北齊辛酉（57−50+1=８日），齊は開府儀同三司の**徐之才**を以て書左僕射と為す。

■戊寅（14+60−50+1=２５日），**武宣皇后**（章太后の諱）を萬安陵に葬す。

■**閏月**，戊申（44−20+1=２５日），**上**は太廟に謁す。

北齊■**五月**，壬午（18+60−49+1=３０日），齊は遣使して來吊す。

北齊**六月**，乙酉（20−19+1=２日），齊は廣寧王の**孝珩**を以て司空と為す。

北齊甲辰（40−19+1=２２日），齊の**穆夫人**は子の**恆**を生む。**齊主**は時に未だ男有らず，之が為に大赦す。**陸令萱**は**恆**が**太子**と為るを欲し，**斛律后**が恨み怒るを恐れ，乃ち**齊主**に白し，**斛律后**の母をして之を養わ使む。

北齊己丑（25−19+1=７日），齊は開府儀同三司の**唐邕**を以て尚書右僕射と為す。

北齊**秋，七月**，癸丑（49−47+1=３日），齊は**肅宗**の子の**彥基**を立てて城陽王と為し，**彥忠**を梁郡王とす。甲寅（50−47+1=４日），尚書令の蘭陵王の**長恭**を以て錄尚書事と為し，中領軍の**和士開**を尚書令と為し，爵の淮陽王を賜る。

北齊［和士開の威權は日々盛ん］**士開**の威權は日々盛んなり，朝士の廉恥を知らざる者は，或は之が假子と為り，富商大賈と同じく伯仲之列に在り。嘗て一人士有り**士開**の疾に參（見舞い）し，醫が云うに値（あ）う、

「王の傷寒は極めて重し，他藥は效無し，應に黃龍湯（陶弘景曰く、近城寺に今して、別に空罌の口を塞ぎ、糞倉中に内れしむ。久年にして汁を得、甚だ黒くして苦し。名づけて黃龍湯と為す。温病にて死に垂なんとする者を治するに皆差ゆと）を服すべし。」

**士開**は難色有り。人士は曰く、

「此の物は甚だ服すに易し，王は疑いて須（もち）いず，請う王の為に先ず之を嘗めん。」

一舉し而して盡くす。**士開**は其の意に感じ，之が為に強めて服し，遂に愈ゆるを得る。

●乙卯（51−47+1=５日），**周主**は長安に還る。

北齊癸酉（9+60-47+1=２３日），齊（劉×）の華山王（郡王、五代志に京兆郡鄭県に北魏は華山郡を置く、河南省開封道鄭県、現・鄭州市金水区）の**凝**を以て太傅と為す。

## 【章昭達は江陵攻略失敗】

■後梁●［章昭達は安蜀城を攻め落す］司空の**章昭達**は梁を攻め（欧陽紇を破り西に向かう），**梁主**は周の總管の**陸騰**と之を拒む。周人は峽口（西陵の峽口）の南巖に於いて安蜀城を築き，横に大索を江上に引き，葦を編みて橋を為り，以て軍糧を度す。**昭達**は軍士に命じて長戟を為り，樓船の上に施し，仰ぎて其の索を割かしむ。索は斷ち，糧は絶え，因りて兵を縦ちて安蜀城（夷陵郡の界に有り、湖北省荊南道宜昌県、現・宜昌市夷陵区）を攻め，之を下す。

■後梁●［周の李遷哲は梁を救援］**梁主**は急を周の襄州總管の**衛公直**に告げ，**直**は大將軍の**李遷哲**を遣わして兵を將いて之を救わしむ。**遷哲**は其の部する所を以て江陵の外城を守らしめ，自ら騎兵を帥いて南門を出，歩（周書李遷哲傳には歩兵）をして北門を出で使め，首尾陳の兵を邀撃せしめ，陳兵は多く死す。夜，陳兵は竊に城西に於いて梯を以て城に登り，登る者は數百人。**遷哲**は**陸騰**と力戰して之を拒み，乃ち退く。

■後梁●［章昭達は引いて還る］**昭達**は又た龍川（水經注に、紀南城の西南に赤坂岡有り、岡下に瀆水有り、東北流して城にいる。又東北流して城を出、西南して龍陂に注ぐ。陂は禀？渓の東江に在り。境内水至りて深淵にして、龍有り其の中に見わる、故に龍陂）の寧朔堤を決し，水を引いて江陵を灌す。**騰**は出でて西堤に戰い，**昭達**の兵は利あらず，乃ち引いて還る。(10-082p)

北齊**八月**，辛卯（27-18+1=１０日），**齊主**は晉陽に如く。

北齊**九月**，乙巳（41-47+1=?、八月なら 41-18+1=２４日），齊は皇子の**恆**を立てて**太子**と為す。

■**冬，十月**，辛巳（17-17+1=１日）朔，日之を食する有り。

北齊［梁の亡命政権復興為さず］齊は廣寧王の**孝珩**を以て司徒と為し，上洛（古の郡名）王の**思宗**を司空と為す。復た梁の永嘉王の**莊**を以て開府儀同三司、梁王（梁の亡命政権）と為し，許すに興復（復興）を以てし，竟に果たさず。齊の亡ぶに及び（後のことを一括に述べている），**莊**は憤邑し，鄴に卒す。

■乙酉（21-17+1=５日），**上**は太廟に享す。

北齊己丑（25-17+1=９日），齊は**威宗**の謚を復して**文宣皇帝**と曰い，廟號を**顯祖**とす。（前巻文帝天嘉六年に改謚の記事あり）

●丁酉（33-17+1=１７日），周の鄭恆公の**達奚武**は卒す。

北齊**十二月**，丁亥（23-16+1=８日），**齊主**は鄴に還る。

●周の大將軍の**鄭恪**は兵を將いて越巂（四川省建昌道西昌県治、現・涼山イ族自治州越西県）を平らげ，西寧州（後に巂州と改める）を置く。

## 【汾北の戰い】

●北齊［韋孝寬の華谷築城策は行なわれず］周、齊は宜陽（現・洛陽市宜陽県）を爭い，久しく決せず。勳州（周は玉壁に置く）刺史の**韋孝寬**は其の下に謂って曰く、

「宜陽は一城之地，損益するに足らず，兩國は之を爭い，師を勞して年を彌（わた）る。彼に豈に智謀之士無からんや，若し崤東（宜陽は崤の東に在り、現・洛陽市洛寧県）を棄てれば，來たりて汾北を圖れば，我は必ず地を失

わん。今宜しく速に華谷（水經注に、涑水は河東の聞喜県黍蕑谷に出ずと。註に云う、涑水の出る所は続に華谷と謂う）及び長秋（水經注に、汾水は臨汾県の東を過ぎ又屈して県南より西し、長修県の南を過ぎ、又西して華水と合す。水は北山華谷に出ずと。所謂長秋は蓋し即ち漢の長修県の故墟なり。俗語で訛りて長秋となる。さんんせいしょう河東道新絳県の西北、現・運城市新絳県）に於いて築城し以て其の意を杜ぐべし。脱し其の我に先ずだてば，之を圖は實に難し。」

乃ち地形を畫き，且に其の狀を陳べる。晉公の**護**は使者に謂って曰く、

「**韋公**の子孫は多しと雖も，數々百に滿たず。汾北に築城すれば，誰を遣わして之を守（過×）らしめんや？」

事は遂に行われず。

北齊●［斛律光と韋孝寬の邂逅］齊の**斛律光**は果たして晉州の道に出で，汾北に於いて華谷、龍門（郡名、山西省河東道河津県、現・運城市河津市）の二城を築く。**光**は汾東に至り，**孝寬**と相い見，**光**は曰く、

「宜陽の小城（続は一城），久しく爭戰を勞す。今已に彼を捨て，汾北に於いて償を取らんと欲す，幸いにも怪む勿れ也。」

**孝寬**は曰く、

「宜陽は，彼之要衝，汾北は，我之棄てる所。我は棄て彼は取る，其の償は安くにか在るや！君は**幼主**を輔翼し，位望は隆重なり，百姓を撫循せず而して武を極め兵を窮め，苟くも尋常之地を貪り，疲弊之民を塗炭す，竊に君が為に取らざる也！」

北齊●［斛律光は定陽を圍む］**光**は進みて定陽（北魏延興四年に郡県を置く、山西省河東道吉県、現・臨汾市吉県）を圍み，南汾（山西省河東道吉県、現・臨汾市吉県）城を築きて以て之に逼る。周人は宜陽之圍みを釋き以て汾北を救う。晉公の**護**は計を齊公の**憲**に問い，**憲**は曰く、

「兄は宜しく暫く同州を出て以て聲勢を為し，**憲**は請う精兵を以て前に居り，機に隨いて攻取せん。」

**護**は之に從う。**(10-083p)**

## 臨海王太建三年（辛卯，５７１年）

■**春，正月**，癸丑（49-45+1=５日），尚書右僕射の**徐陵**を以て左僕射と為す。

北齊■丁巳（53-45+1=９日），齊は兼散騎常侍の**劉環俊**をして來聘せ使む。

■辛酉（57-45+1=１３日），**上**は南郊に祀る辛未（7+60-45+1=２３日），北郊に祀る。

北齊［斛律光は西境界を固める］齊の**斛律光**は十三城を西境に築き，馬上に鞭を以て指畫し而して成り，地を拓くこと五百里，而るに未だ嘗て功を伐らず。又た周の**韋孝寬**と汾北に戰い，之を破る。齊公の**憲**は諸將を督して東に齊師を拒む。

■**二月**，辛巳（17-15+1=３日），**上**は明堂に祀る。丁酉（33-15+1=１９日），藉田を耕す。

北齊壬寅（38-15+1=２４日），齊は蘭陵王の**長恭**を以て太尉（尉×）と為し，**趙彦深**を司空と為し，**和士開**に尚書事を錄さしめ，**徐之才**を尚書令と為し，**唐邕**を左僕射と為し，吏部尚書の**馮子琮**を右僕射と為し，仍って（吏部の）選を攝せしむ。

北齊［馮子琮と和士開に隙有り］**子琮**は素より**士開**に諂附し，是に至り，自ら**太后**の親屬にして，且つ選を典るを以て，頗る擅に人を引用し，復た啟稟せず，是に由りて**士開**と隙有り。

■**三月**，丁丑（13+60-44=２９日），大赦す。

北齊■［汾北の攻防］周の齊公の**憲**は龍門より渡河（夏陽より汾陰を渡る）し，**斛律光**は退きて華谷を保ち，**憲**

は攻めて其の新築の五城を抜く。齊の太宰の**段韶**、蘭陵王の**長恭**は兵を將いて周師を御ぎ，柏谷城を攻め，之を拔き而して還る。(齊は伊洛に出て汾北を牽制)

■**夏，四月**，戊寅（14-14+1=１日）朔，日之を食する有り。
北齊壬午（18-14+1=５日），齊は琅邪王の**儼**を以て太保と為す。
北齊■壬辰（28-14+1=１５日），齊は遣使して來聘せしむ。
●北齊周の陳公の**純**等は齊の宜陽等九城を取り，齊の**斛律光**は步騎五萬を將いて之に赴く。
●■**五月**，癸亥（59-43+1=１７日），周は納言（北周は天官府に御伯中大夫二人を置き、天子の出入りに左右に侍す。武帝は御伯を改めて納言といす、侍中の職）の**鄭詡**をして來聘せ使む。
●北齊［郭榮の築城と段韶の攻撃］周の晉公の**護**は中外府參軍の**郭榮**をして姚襄城（襄が桓温に破られ平陽に奔る時、築く所にして、後の人は因りて名と為す。、山西省河東道吉県の西、現・臨汾市吉県）の南、定陽城の西に城きずか使め，齊の**段韶**は兵を引いて周師を襲い，之を破る。**六月**，**韶**は定陽城を圍み，周の汾州刺史の**楊敷**は固守して下らず。**韶**は急に之を攻め，其の外城を屠る。時に**韶**は病に臥し，蘭陵王の**長恭**に謂って曰く、
「此の城は三面（三百×）重澗にして，皆な走路無し。唯だ東南（東直×）の一道を慮る耳，賊は必ず此より出でん，宜しく精兵を簡びて之を專守すべし，此れ必ず擒と成らん。」
**長恭**は乃ち壯士千餘人をして東南の澗口に伏せ令む。城中の糧は盡き，齊公の**憲**は兵を總べて之を救い，**韶**を憚り，敢えて進まず。**敷**は見兵を帥いて圍みを突きて夜走り，伏兵は擊ちて之を擒とし，盡く其の衆を俘とす。乙巳（41-13+1=２９日），齊は周の汾州（定陽城に治す、隋は改めて吉昌県とす、山西省河東道吉県、現・臨汾市吉県）及び姚襄城を取り，唯だ**郭榮**の築く所の城は獨り存す。**敷**は，**愔**之族子也。
●北齊［楊素の才能］**敷**の子の**素**は，少くして才藝多く，大志有り，小節に拘らず。其の父の節を守りて齊に陷ち，未だ贈謚を蒙らざるを以て，上表して申理す。**周主**は許さず**(10-084p)**，再三に至り，**帝**は大いに怒り，左右に命じて之を斬らしむ。**素**は大言して曰く、
「臣は無道の**天子**に事える，死は其の分也！」
**帝**は其の言を壯とし，**敷**に大將軍を贈り，謚して**忠壯**と曰い，**素**を以て儀同三司と為し，漸く禮遇せらる。
**帝**は**素**に命じて詔書を為らしめ，筆を下せば立ちどころに成り，詞義兼ねて美なり，**帝**は曰く、
「之を勉めよ，富貴ならざるを憂うる勿れ。」
**素**は曰く、
「但だ恐れるは富貴が來りて臣に逼り，臣は富貴を圖るに心無き也。」
●北齊［齊主は斛律光の帰還を警戒］齊の**斛律光**は周師と宜陽城下に戰い，周の建安等四戍，捕虜千餘人を取り而して還る。軍は未だ鄴に至らず，**齊主**は敕して兵を散ぜ使め，**光**は軍士の多く功在る者の，未だ慰勞するを得ざるを以て，乃ち密に表を通じ，遣使して宣旨（慰勞の旨）せんことを請い，軍は仍って且つ進み，齊朝は使いを發して遲留せしむ。軍は還り，將に紫陌に至らんとし，**光**は乃ち營を駐めて使いを待つ。**帝**は**光**の軍の已に逼るを聞き（既に疑う），心は甚だ之を惡み，亟に舍人をして**光**を召して入見せ令め，然る後に勞を宣して兵を散兵す。
北齊［琅邪王の儼を警戒］齊の琅邪王の**儼**は**和士開**、**穆提婆**等が專横奢縱なるを以て，意は甚だ不平なり。二人は相い謂って曰く、
「**琅邪王**の眼光は奕奕として，數步に人を射る，向者(さきに)暫く對して，覺えず汗出ず。吾輩は**天子**を見て事を奏するに尚ほ然らず。」

是に由りて之を忌み，乃ち**儼**を出して北宮（鄴の北城）に居らしめ，五日に一たび朝し，時無く**太后**に見えざるを得ざらしむ。

北齊［琅邪王儼を太保に祭り上げ］**儼**之太保に除せられる也，餘官は悉く解き，猶ほ中丞及び京畿を帶びる。**士開**等は北城に武庫有るを以て，**儼**を外に移し，然る後に其の兵權（京畿大都督は京畿の兵を総べる）を奪わんと欲す。治書侍御史の**王子宜**は，**儼**の親する所の開府儀同三司の**高捨洛**、中常侍の**劉辟強**と**儼**を說いて曰く、

「**殿下**は疏んぜられるは，正に**士開**の間構するに由る，何ぞ北宮を出でて民間に入る可けん也！」

**儼**は侍中の**馮子琮**に謂って曰く、

「**士開**の罪は重く，兒(馮子琮は胡太后の妹の夫。故に儼は自ら兒とす)は之を殺さんと欲す，何如や？」

**子琮**は心に**帝**を廢し而して**儼**を立てんと欲し，因りて勸めて之を成さしむ。

北齊［琅邪王儼は和士開に逆クーデター］**儼**は**子宜**をして表して**士開**の罪を彈じ，禁推に付（続は無し）さんと請わ令む。**子琮**は它の文書を雜えて之を奏し，**齊主**（続は帝王）は審省せず而して之を可とす。**儼**は領軍の**庫狄伏連**を誑(たぶら)かして曰く、

「敕を奉じ，領軍をして**士開**を收め令めん。」

**伏連**は以て**子琮**に告げ，且つ覆奏せんと請い，**子琮**は曰く、

「**琅邪**は敕を受く，何ぞ必ずしも更に奏せんや。」

**伏連**は之を信じ，京畿の軍士を發し，神虎門（神武門、南北の四史は唐時代に編纂され、唐の諱を避けて虎の時は悉く武と改定。ここだけ虎の字を残す）外に伏し，並せて門者を戒めて**士開**の入るを聽さず。**秋，七月**，庚午（6+60−42+1=２５日）旦，**士開**は常に依りて（常日の如く）早參し，**伏連**は**士開**の手を執りて曰く、

「今一大好事有り。」

**王子宜**は授けるに一函を以てし，云う、

「敕有り，王をして台に向かわ令む。」

因りて軍士を遣わして護送す。**儼**は都督の**馮永洛**を遣わして台に就き之を斬らしむ。

北齊[齊主は儼を召す]**儼**の本意は唯だ**士開**を殺すにあるも，其の黨は因りて**儼**に逼りて曰く、(10-085p)

「事既に然るならば，中止す可からず。」

**儼**は遂に京畿の軍士三千餘人を帥いて千秋門に屯す。**帝**は**劉桃枝**をして禁兵八十人を將いて**儼**を召さ使め，**桃枝**は遙拜す。**儼**は命じて反縛せしめ，將に之を斬らんとし，禁兵は散走す。**帝**は又た**馮子琮**をして**儼**を召さ使め，**儼**は辭して曰く、

「**士開**は昔來實に合(まさ)に萬死すべし，**至尊**を廢し，家家（齊の諸王は嫡母を家々と謂い、乳母を姊姊と謂う）の發（髪）を剃り尼と為さんと謀る，臣は是が為に詔を矯めて之を誅す。尊兄若し臣を殺さんと欲すれば，敢えて罪を逃れず。若し臣を赦（敕×）せば，願わくは姊姊を遣わして來迎すれば，臣は即ち入り見みえん。」

姊姊は，**陸令萱**を謂う也，**儼**は誘い出して之を殺さんと欲す。**令萱**は刀を執りて**帝**の後（后×）に在り，之を聞き，戰慄す。

北齊［齊主は窮地に斛律光を召す］**帝**は又た**韓長鸞**をして**儼**を召さ使め，**儼**は將に入らんとし，**劉辟強**は衣を牽いて諫めて曰く、

「若し**穆提婆**の母子を斬らざれば，**殿下**は入るを得るに由無し。」

廣寧王の**孝珩**、安德王の**延宗**は西より來たりて，曰く、

「何ぞ入らざるや？」

**辟強**は曰く、
「兵少なし。」
**延宗**は衆を顧み而して言って曰く、
「**孝昭帝**は**楊遵彦**を殺す（楊愔を殺すは 168 巻文帝天嘉元年にあり）に，止だ八十人。今數千有り，何の少なきと謂うや？」
**帝**は泣いて**太后**に啟して曰く、
「緣有れば，復た家家に見えん；緣無ければ，永く別れん！」
乃ち急に**斛律光**を召し，**儼**も亦た之を召す。
北齊［斛律光は冷静に対処］**光**は**儼**が**士開**を殺すを聞き，掌を撫でて大いに笑いて曰く、
「龍子（儼が帝の子なるを以て謂う）の為す所，固より自ら凡人に似ず！」
入りて，**帝**に永巷に見ゆ。**帝**は宿衛の者歩騎四百を帥い，甲を授け，將に出でて戰わんとし，**光**は曰く、
「小兒輩は兵を弄ぶ，輿に手を交えれば即ち亂れる。鄙の諺に云う、『奴大家を見れば心死す』と、**至尊**は宜しく自ら千秋門に至れば，**琅邪**は必ず敢えて動かず。」
**帝**は之に從う。
北齊［斛律光は儼を説得成功］**光**は步道し，人をして走り出で使め，曰く、
「大家來たる。」
**儼**の徒は駭き散る。**帝**は馬を橋上に駐め遙に之を呼び，**儼**は猶ほ立ちて進まず，**光**は就きて謂って曰く、
「**天子**の弟は一夫を殺す，何の苦しむ所あらんや！」
其の手を執り，強いて引いて以て前み，**帝**に請いて曰く、
「**琅邪王**は年少なり，腸肥え腦は滿ち，輕々しく舉措を為し，稍（やや）長ずれば自ら復た然らず，願わくは其の罪を寬めよ。」
**帝**は**儼**の帶びる所の刀環を抜き，辮頭を亂築すること，良く久しく，乃ち之を釋す。
北齊［反乱軍に寬大な措置］**庫狄伏連**、**高捨洛**、**王子宜**、**劉辟強**、都督の**翟顯貴**を收め，後園に於いて支解し，之を都街に暴（さら）す。**帝**は盡く**儼**の府の文武職吏を殺さんと欲し，**光**は曰く、
「此れ皆な勳貴の子弟なり，之を誅せば，恐らくは人心は安ぜず。」
**趙彦深**も亦た曰く、
「《春秋》（春秋左氏傳に、韓獻子は中行桓子に謂って曰く、子は元帥たり、帥は命を用いざるは、誰の罪ぞやと）は帥を責める。」
是に於いて之を罪するに各々差有り。
北齊［太后は儼を宮中に置く］**太后**は**儼**を責め問い，**儼**は曰く、
「**馮子琮**は兒に教える。」
**太后**は怒り，遣使して內省に就き弓弦を以て**子琮**を絞殺せしめ，內參（宦官）をして庫車（庫物を載せる車）を以て屍を載せて（10-086p）其の家に歸さ使む。是より**太后**は常に**儼**を宮中に置き，食每に必ず自ら之を嘗める。（鴆毒を慮る）

## 【琅邪王誅殺と胡太后幽閉】

北齊**八月**，己亥（35-12+1=２４日），**齊主**は晉陽に如く。**九月**，辛亥（47-42+1=６日），齊は任城王の**湝**を以て太宰と為し，馮翊王の**潤**を太師と為す。
北齊［重鎮の段韶は卒す］己未（55-42+1=１４日），齊の平原の忠武王の**段韶**は卒す。**韶**は謀略有り，將

士の死力を得，出でては軍旅を總べ，入りては幃幄に參し，功高く望み重く，而るに雅性溫慎にして，宰相の體を得たり。後母に事えて孝に，閨門は雍肅（和らぎ包む）なり，齊の勳貴之家は，能く及ぶ者無し。

北齊［陸令萱は琅邪王を落とし入れる］齊の**祖珽**は**陸令萱**を說き，**趙彦深**を出して兗州刺史と為す。**齊主**は**珽**を以て侍中と為す。**陸令萱**は**帝**を說いて曰く、

「人は**琅邪王**の聰明雄勇なりて，當今無敵と稱す。其の相表（人相）を觀るに，殆んど人臣に非ず。專殺せしより以來，常に恐懼を懷く，宜しく早く之が計を為すべし。」

幸臣の**何洪珍**等も亦た之を殺すを請い。**帝**は未だ決せず，食輿（続は食畢、梁洛を載せて以て大官に輸る者）を以て密に**珽**を迎え，之を問い，**珽**は稱す、

「**周公**は**管叔**を誅し（周公は管叔をして殷を監せしむ。管叔は殷を以て叛く。周公は之を誅す），**季友**は**慶父**を鴆す（左傳に、魯の莊公は疾有り、後を叔牙に問う。對えて曰く、慶父は材ありと。李友に問う。李友曰く、臣は死を以て般を奉ぜんと。乃ち鍼李をして叔牙を酖せしめ、而して般を立つ。慶父は人をして般を弑せしむ。李友は閔公を立つ。慶父は叉人をして之を弑せしむ。李友は僖公を以て邾に適く。慶父は莒に奔る。李友は乃ち入りて僖公を立てて賂を以て慶父を莒に求む。莒人は之を帰す。密に及び、公子奚斯をして請わしむ。赦さず。哭して往く。慶父は之を聞きて曰く、奚斯の聲なりと。乃ち縊る。慶父・叔牙・李友は皆、桓公の子にして兄弟なり、然して酖を以て死する者は叔牙なり）。」

**帝**は乃ち**儼**を攜えて晉陽に之き，右衛大將軍の**趙元侃**をして**儼**を誘いて之を執ら使め，**元侃**は曰く、

「臣は昔**先帝**に事え，**先帝**が王を愛するを見る。今寧ろ死に就くとも，此を行なうを須いず。」

**帝**は**元侃**を出して豫州刺史と為す。

北齊［儼の誅殺］庚午（6+60-42+1=２５日），**帝**は**太后**に啟して曰く、

「明旦**仁威**（儼の字）と早く出で獵せんと欲す。」

夜四鼓し，**帝**は**儼**を召し，**儼**は之を疑う。**陸令萱**は曰く、

「兄呼ぶ，兒は何為れぞ去らざる！」

**儼**は出で，永巷に至り，**劉桃枝**は其の手を反接す。**儼**は呼んで曰く、

「乞う家家は、尊兄に見えん。」

**桃枝**は袖を以て其の口を塞ぎ，袍を反して頭に蒙らせ負い出で，大明宮に至る。鼻血面に滿ち，之を拉殺す，時に年は十四，之を裹むに席を以てし，室內に埋める。**帝**は**太后**に啟せ使め，**太后**は臨哭すること，十餘聲，即ち擁して殿に入る。遺腹の四男，皆な幽死す。

北齊**冬，十月**，京畿の府を罷めて，領軍に入る。（儼が京畿の兵を以て兵を弄すを以て、罷める）

●壬午（18-11+1=８日），周の冀公の**通**は卒す。

■甲申（20-11+1=１０日），**上**は太廟に享す。

●北齊乙未（31-11+1=２１日），周は右武伯（五代史に、周は左右武伯を置き、內外衛のの禁令を掌り、六率の士を兼ねる。左右小武伯は各々二人、之を貳すと）の**谷會琨**等を遣わして齊に聘せしむ。

北齊［胡太后のふしだら露見］齊の**胡太后**は出入に節あらず，沙門統の**曇獻**と通じ，諸僧は戲れて**曇獻**を呼びて**太上皇**と為す者有るに至る。**齊主**は**太后**の謹まざるを聞き而るに未だ之を信じず，後**太后**に朝し，二尼を見，悅び而して之を召し，乃ち男子也。是に於いて**曇獻**の事も亦た發し，皆な伏して誅す。

北齊［胡太后を幽閉］己亥（35-11+1=２５日），**帝**は晉陽より**太后**を奉じて鄴に還り，紫陌に至り，大風に遇う。舍人の**魏僧伽**は風角を習い，奏して言う、

「即時當に暴逆の事有るべし。」

**帝**は詐りて云う、

「鄴中に變有り」
と，弓を彎き矟を纏い，馳せて南城に入り，宦者の**鄧長顒**を遣わして**太后**を北宮に幽し，仍って内外の諸親に敕し皆な**胡太后**と相い見るを得ざらしむ。**太后**は或は**帝**の為に食を設け，**帝**も亦た敢えて嘗めず。
北齊庚戌（十一月なら 46-41+1=６日），齊は侍中の**赫連子悦**を遣わして周に聘せしむ。
●**十一月**，丁巳（53-46+1=８日），**周主**は散關に如く。
北齊丙寅（2+60-46+1=１７日），齊は徐州行台の廣陵王の**孝珩**を以て錄尚書事と為す。庚午（6+60-46+1=２１日），又た以て司徒と為す。癸酉（9+60-46+1=２４日），**斛律光**を以て左丞相と為す。
●**十二月**，己丑（25-10+1=１６日），**周主**は長安に還る。
■壬辰（28-10+1=１９日），邵陵公の**章昭達**は卒す。

後梁●［周は三州を梁に与える］是の歳，梁の**華皎**は將に周に如かんとし，襄陽を過ぎ，衛公の**直**を說いて曰く、
「**梁主**は既に江南の諸郡を失い，民は少なく國は貧し。朝廷は興亡繼絕，理は宜しく資贍すべし，望むらくは數州を借りて以て梁國に資せん。」
**直**は之を然りとし，遣使して狀を言い，**周主**は詔して基、平、郡の三州を以て之に與える。

令和 5 年 7 月 17 日翻訳開始　　12122 文字
令和 5 年 7 月 26 日翻訳終了　　26430 文字